

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400081		
法人名	社会福祉法人 比内ふくし会		
事業所名	グループホーム山王台 こまち		
所在地	秋田県大館市池内字上野234-1		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差し13年が経過しました。町内会との合同避難訓練や地域交流会、町内会清掃ボランティア等に参加し、地道に信頼を得る事ができていると思います。本年はコロナウイルスの影響もあり制限を強いられる状況の為、地域の施設ボランティアの受け入れが出来ない状態でした。そのような状況でも職員が地域の清掃活動等に参加する事により、活動の関わりの中で事業所が地域の中で認識され地域の一員として受け入れられている事を実感しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は整然とし、自宅にいるような落ち着いた雰囲気づくりがなされていた。住宅街に立地し、運営推進会議や町内会行事、敷地内駐車場を開放して行う地域交流会など、地域と良いコミュニケーションが図られている。その結果、地域住民からの施設運営へのアドバイスや、災害時の駆けつけ体制に協力していただくといった関係性が築かれ、互いに協力しあいながら、地域に根差した施設となっている。
 コロナ禍により外出や面会が制限される中において、単調な生活にならないために何が出来るかを職員が常に考え、より良い支援についての検討がなされていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関、更衣室に理念を掲示し、常に念頭に置き職員周知し業務遂行している。	法人理念の“共生”を基本として、グループホームの理念(目標)を職員で検討して設定している。理念は玄関・事務室・休憩室等に掲げられ、常に意識しながら支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、老人クラブの会合やチャレンジデー、地域交流会に取り組んでいるが本年はコロナ対策の為に入居者の活動は自粛している。職員のみ地域の清掃活動に参加し顔の見える関係を維持している。	地域住民のボランティアを受け入れる他、町内会に加入し、地域の行事にも参加している。今年度は感染症対策のため利用者の参加は見合わせた。職員のみで清掃活動に参加するなど関係が途切れないよう配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の老人クラブの依頼に応じて講義等の調整を行っていたが、本年はコロナ対策の為に、自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年はコロナ対策の為に、県の通達に沿って文書会議として行っている。サービスの取組を資料として送付し書面にて意見を頂いている。意見は施設運営に反映している。	今年度は書面での開催となっている。ホームの活動について詳細な報告がされているとともに、報告、運営に対する意見を積極的に収集していた。出された意見については次回会議の議題にするなど、会議が積極的に活用され、運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて市や地域包括支援センター職員と情報交換を行っている、又、福祉事務所の生保係担当者とも密に情報交換を行っている。	運営推進会議を通して運営に対する意見をもらい、また介護予防等市主催の研修については随時周知してもらい参加するなど、連携を図りながら進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度の委員会にて事例検討を行いながら定期的に内部研修を開催している。又、職員同志で環境や互いの援助方法を確認している。	「身体拘束適正化のための指針」を作成し、定期的に委員会を実施している。委員会の結果は都度職員に周知されている。今年度はスピーチロックに関する研修を行い、不適切なケアについて考える機会を設けていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と並行し委員会が中心となり内部研修を開催している。事例検討を行い、職員が互いの援助方法を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症施設としての責務として内部研修を行いながら自立した生活が送れるよう関係機関との連絡等を確認している。人事異動となる職員に対し都度研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には完結に至るまでを懇切丁寧に説明し十分に理解されたうえで契約となる。法改正や契約内容改定時には説明と共に交付し同意を得ている。不明な点は都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し家族の意見を募っている。運営推進会議や面会時など、家族から受けた何気ない意見や要望を聞き取りサービスへと繋ぎ込んでいる。	利用者からは、普段の何気ない会話や支援の中から要望を聞き取るよう努めている。また、ご家族へは毎月の広報紙「スマイル」を発行郵送し施設での状況を細かに報告している。コロナ禍により面会が制限される中、家族からテレビ電話を活用した面会の要望もあり、通信環境の整備と導入について検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス開催時に意見交換を行ったり、個別に意見を徴収する事により業務改善等の業務見直しに繋がっている。	支援内容や運営に対しての意見が出た場合には、その都度カンファレンスを行うこととしており、出された意見について職員間で検討しながら、より良い支援につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内ではキャリアパス制度に基づき、職位に応じて人財育成研修制度を行っている。又、次世代育成支援行動計画に基づき、仕事と子育ての両立支援を行い、働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数やキャリアに応じ法人内の人財育成研修に参加し、職員が各々スキルアップを目指している。又、資格所得の受講費支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内GH2ヶ所と定期的に連携をとり互いの現状や課題点を報告し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に施設の概要を説明すると共に、要望をご本人、御家族やケアマネジャー、支援者から思いを汲み取り安心してホームでの生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に施設の概要を説明すると共に、御家族やケアマネジャーから思いを汲み取り安心してホームでの生活が送れるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のADLを考慮し生活歴を元に日常生活の活動(盛り付け・洗濯干し・テーブル拭き・モップ掛け)を各々の役割と位置づけ職員と共に活動し感謝の気持ちを伝えている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便りで近況を報告している。病院受診等や散髪等、家族として支援出来る場面を提供し施設、家族と共に支え合う環境を整えている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの行きつけのお店(美容院・床屋)を継続して利用している。本年はコロナの為外出を自粛しているが、墓参りや親せきの集会に出掛ける機会を家族と調整している。	普段は、家族との外泊や馴染みの美容室利用、墓参り等の支援を継続して行っている。現在は、外出の制限がある中、可能な限り行きつけの店や馴染みの関係は継続して行けるよう調整している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互い、楽しく談笑できる距離にあり体操や余暇活動・家事作業等、役割を持ち助け合いながら生活出来るよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談や本人の今後について相談を受けた場合は、ケアマネジャーへの引き継ぎや必要なサービスの提案を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で得た本人の意向を今後の暮らしに活かす様、ケアプランに反映させている。意思表示の少ない方には、家族からの情報やバックグラウンドを基に本人の望む生活に近づけるよう支援していく。	入居時には本人、家族と話し合いにより聞き取りを行うとともに、日常の支援の中で利用者の思いを汲み取るよう努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時のご本人・ご家族からの聞き取りやケアマネジャーからの情報によりご本人のこれまでの生活を理解し、ホームでの生活が今までの延長として継続できるよう支援している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を基に情報の共有を行っている。ご本人の意向や気づきを事細かく記録に残している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今できる事、できない事、望んでいる事、以前出来ていた事等、全職員からの意見を聴取し課題分析を行っている。ご家族の要望も取り入れながら現状に即した計画を立案している。	利用者支援の中で気づいたことをすぐに記録し共有できるよう「連絡ノート」を活用している。記載した内容については「サービス担当者会議」で職員間で検討し、必要に応じて介護計画に盛り込んでいる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1人の心身の状態を確認し、申し送りやケース記録を基に情報の共有に努めている。ケース記録には意向や気づき、その日の様子を細かく残し、カンファレンス時の参考としている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽ボランティア、学生受け入れ等行っているが、コロナ対策の為自粛している。生活保護を受け入れ最低限の暮らしを支える様、資源を活用している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続やご本人、ご家族が希望する医療機関を利用している。特に希望が無い場合はホームのかかりつけ薬局にて対応し密に連携し相談している。	入居前のかかりつけ医に受診することができる体制となっている。家族の付き添いをお願いしているが、遠方の方には職員で付き添いを行っており、また現在はコロナ禍のため、同じく職員で付き添いを行っているとのこと。薬局は、ホームでのかかりつけ薬局から配達とアドバイスが受けられる体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在により病院受診時には担当看護師へ現状を報告する。緊急時には直接、看護師へ指示を頂く。家族対応時には口頭その他、情報提供書を利用し書面にて的確に伝わるよう工夫している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際より、地域連携室退院支援センターと連携し情報の共有を行っている。都度、連絡を取り合い退院日の調整や受け入れ時のご本人の状態を確認している。退院が長引く際は次のサービスへと繋がる支援も相談している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ重度化した際の事業所の方針を説明している。かかりつけ医によっては呼吸の有無により昼夜問わず連絡を入れるよう指示をうけている。ホームでの生活が困難となった場合の提案も説明している。	利用者が重度化した際の方針については、入居時に説明を本人・家族に対して行っている。特に医療的ケアが必要になった際には、都度話し合いを持ちながら、他のサービス利用や施設の移行も含め支援をしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。事故発生時に備え急変時のマニュアルを目の届く場所へ保管。急変時マニュアルを見直し全職員が救急車要請を行えるよう手順を確認している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会員で構成される緊急連絡員に協力をいただき合同の火災避難訓練を実施している。水害、土砂災害時の避難方法や避難場所の確認、持ち出し用品の確認も行っている。	土砂災害の被災区域になっていることから、ホームでは土砂災害が起きたことを想定し、避難路の確認と手順を検討している。非常時には地域住民の駆け付けと避難誘導の協力を依頼しており、訓練にも参加してもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として入居者への尊敬の念を忘れず、人格を尊重した声掛けや対応に努めている。自尊心に配慮した援助や個々のプライバシーに気を付けながら対応している。	利用者の呼び方やトイレ誘導時の声掛けなど、常に利用者の立場で考えると共に、そうした声掛けによりアットホームな雰囲気が崩れることのないように配慮し支援している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の関わりの中で思いや要望を言葉や言動などから感じ取り、職員との密なコミュニケーションから本人の意思表示がし易い環境をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前からの生活環境を重視し24時間アセスメントシートにて1日のペースを確認している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人1人の性格や価値観、センスを御家族と相談し画一的な身だしなみではなく、本人らしい姿や本人の望む着こなしが出来るよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好に合わせ好き嫌い・形態を配慮し提供している。季節の食材を取り入れたり、行事食のメニューを作成している。又、配膳・下膳等入居者の役割として職員と一緒にやっている。	入居時の聞き取りから食事についての状況を把握するとともに、入居後に知り得た好みの食べ物なども随時記録しており、嗜好を把握するよう努めている。ホームでは給食委員会を組織しており、そうした情報を共有するとともに、季節に合わせた行事食の検討も行っている。利用者は食材の下ごしらえや下膳の手伝いなど、職員と共に食事の過程を楽しんでいる。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を心がけている。食事摂取量・水分摂取量を毎日記録付けし、入居前の習慣を考慮しながら味付けや量を調整している。体重の増減が見られた際はかかりつけ医と相談しながら摂取量を調整している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、習慣として行っているが、声掛けや付添いにて本人に合わせた口腔ケアを行っている。実施後は記録へ残している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、定時誘導を行い排泄のタイミングを計らい失禁防止に努めている。失敗時には羞恥心に配慮し援助している。又、日中はリハビリパンツから布パンツへ交換し自立に近づける努力を行っている。	排泄チェック表により、利用者の水分補給量や排泄パターンなどの把握に努め、日中は布パンツを着用しながら、トイレ誘導により出来るだけ自立した排泄が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操に参加を促したり、水分を多く摂取するよう促しを行っている。野菜を多く取り入れたメニューの工夫も行っている。排泄表を確認しながら便秘傾向の入居者はかかりつけ医と連携し下剤調整を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルを確認後、本人の希望を考慮し午前、午後に入浴を行っている。夜間入浴は職員の配置上、対応が出来ない旨を説明している。あくまでも本人の意向を最優先にし気持ちよく入浴していただけるよう対応している。	入浴表を活用し、曜日に関係なく利用者の健康状態や意向を踏まえ入浴日を決定している。週に2回程度実施し、利用者のペースに合わせた入浴支援を行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせて昼夜問わず、自室で自由に休息出来るよう空調の調整や、職員が直ぐに駆け付けられるよう見守りを行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量・副作用等、処方される度に薬情を申し送り職員へ周知する。服薬は3重にチェックする体制をとり誤薬に努めている。かかりつけ薬局と密に連絡を取り合い、薬が変更になる度に説明を頂き、薬の相談も気兼ねなく受けて頂いている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドやご家族の情報から、ご本人が得意としていた事や興味のある事、仕事歴を参考に手作業、裁縫、編み物、音楽鑑賞等、趣味を楽しめる支援を行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・散髪・買い物等本人の希望に沿って個別に対応している。ご家族の協力を得て、生家や墓参りへの外出や外泊、花見・紅葉ドライブを例年行ってきたが本年はコロナ対策の為外出は自粛している。	近隣の直売所への散歩やプランターへの水やり作業など天気の良い日は日常で外出する機会を設け、利用者の要望に応じて買い物外出や花見・紅葉ドライブを行うなど積極的に外出支援を取り入れている。現在は外出が難しい状況ではあるが、ホームでの活動に工夫を凝らし、単調な生活とならないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から小遣いとしてホームでお金をお預かりしている。自己管理希望者には個別に対応し必要分をお渡ししている。又、家族の意向に応じている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話や手紙のやり取りは自由に行っている。ご家族の意向で携帯電話を持参されている入居者もいる。本人からの要望があればご家族へ連絡を入れ安心できるよう支援している。本年はコロナ対策の為、面会も自粛しており電話での様子伺いを御家族へ推奨した。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感を感じられる花や飾りを置いている。常に清潔感を保てるよう配慮し、空気清浄機・空調・照明・テレビの音に気を付けながら、常に人の会話が聞こえる様努めている。トイレは消臭スプレーを使用し他者が不快にならない様努めている。	共用空間は、落ち着いた家庭的な雰囲気となっており、空調や湿度等に配慮している。また植物や花を飾るなど、利用者に季節を感じてもらおう配慮もされていた。現在はコロナ対策として意識的に換気を増やしており、感染症予防にも取り組んでいる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは気の合う方同士で過ごせる様にソファや椅子の配置に配慮している。個別に休めるソファも設置し落ち着いた過ごせる居場所づくりに努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や、本人の大切なパートナーの写真等を飾る事により安心して過ごして頂いている。本人の希望に沿ってテレビを設置したり入居前の生活に近づける様努めている。	ベッドは備え付けのものを使用している。出来るだけ自宅での環境に近づけるために、入居時に聞き取りを行いながら、家具や写真など思い思いに持ち込んでもらっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLを勘案し食事席の場所やトイレに近い居室等、個々の動線を確保し安全に移動できるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400081		
法人名	社会福祉法人 比内ふくし会		
事業所名	グループホーム山王台 おぼこ		
所在地	秋田県大館市池内字上野234-1		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差し13年が経過しました。町内会との合同避難訓練や地域交流会、町内会清掃ボランティア等に参加し、地道に信頼を得る事ができていると思います。本年はコロナウイルスの影響もあり制限を強いられる状況の為、地域の施設ボランティアの受け入れが出来ない状態でした。そのような状況でも職員が地域の清掃活動等に参加する事により、活動の関わりの中で事業所が地域の中で認識され地域の一人として受け入れられている事を実感しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念とユニット目標を掲げ玄関、更衣室に掲示している。職員共有し皆で実践に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、町内会行事に参加したり事業所敷地内を開放し地域住民とチャレンジデーを行っているが本年はコロナ禍もあり自粛している。今後もオカリナボランティアや地域交流会を状況を見て開催していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で町内会長を通じ、認知症の講習会希望があれば対応している。本年はコロナ対策の為に自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年はコロナ対策の為に、県の通達に沿って文書会議として行っている。サービスの取組を資料として送付し書面にて意見を頂いている。意見は施設運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市や地域包括支援センター職員と情報交換を行っており、定期的に介護保険最新情報の連絡を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度の委員会にて事例検討を行いながら定期的に内部研修を開催している。又、職員同志で環境や互いの援助方法を確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と並行し委員会が中心となり内部研修を開催している。事例検討を行い、職員が互いの援助方法を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症施設としての責務として内部研修を行いながら自立した生活が送れるよう関係機関との連絡等を確認している。人事異動となる職員に対し都度研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には完結に至るまでを懇切丁寧に説明し十分に理解されたうえでの契約となる。法改正や契約内容改定時には説明と共に交付し同意を得ている。不明な点は都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し家族の意見を募っている。運営推進会議や面会時など、家族から受けた何気ない意見や要望を聞き取りサービスへと繁栄している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス開催時に意見交換を行ったり、個別に意見を徴収する事により業務改善等の業務見直しに繋がっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内ではキャリアパス制度に基づき、職位に応じて人財育成研修制度を行っている。又、次世代育成支援行動計画に基づき、仕事と子育ての両立支援を行い、働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数やキャリアに応じ法人内の人財育成研修に参加し、職員が各々スキルアップを目指している。又、資格所得の受講費支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内GH2ヶ所と定期的に連携をとり互いの現状や課題点を報告し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に施設の概要を説明すると共に、要望をご本人、御家族やケアマネジャー、支援者から思いを汲み取り安心してホームでの生活が送れるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に施設の概要を説明すると共に、御家族やケアマネジャーから思いを汲み取り安心してホームでの生活が送れるように努めている。	
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のADLを考慮し生活歴を元に日常生活の活動(盛り付け・洗濯干し・テーブル拭き・モップ掛け)を各々の役割と位置づけ職員と共に活動し感謝の気持ちを伝えている。	
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便りで近況を報告している。病院受診等や散髪等、家族として支援出来る場面を提供し施設、家族と共に支え合う環境を整えている。又、本人自筆の手紙をお便りに添えている。	
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの行きつけのお店(美容院・床屋)を継続して利用している。本年はコロナの為外出を自粛しているが、例年、墓参りや親せきの集会に出掛ける機会を家族と調整している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互い、楽しく談笑できる距離にあり体操や余暇活動・家事作業等、役割を持ち助け合いながら生活出来るよう支援している。	
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談や本人の今後について相談を受けた場合は、ケアマネジャーへの引き継ぎや必要なサービスの提案を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で得た本人の意向を今後の暮らしに活かす様、ケアプランに反映させている。意思表示の少ない方には、家族からの情報やバックグラウンドを基に本人の望む生活に近づけるよう支援していく。		
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時のご本人・ご家族からの聞き取りやケアマネジャーからの情報によりご本人のこれまでの生活を理解し、ホームでの生活が今までの延長として継続できるよう支援している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を基に情報の共有を行っている。ご本人の意向や気づきを事細かく記録に残している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今できる事、できない事、望んでいる事、以前出来ていた事等、全職員からの意見を聴取し課題分析を行っている。ご家族の要望も取り入れながら現状に即した計画を立案している。		
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1人の心身の状態を確認し、申し送りやケース記録を基に情報の共有に努めている。ケース記録には意向や気づき、その日の様子を細かく残し、カンファレンス時の参考としている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽ボランティア、学生受け入れ等行っているが、コロナ対策の為自粛している。生活保護を受入れ最低限の暮らしを支える様、資源を活用している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続やご本人、ご家族が希望する医療機関を利用している。特に希望が無い場合はホームのかかりつけ薬局にて対応し密に連携し相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在により病院受診時には担当看護師へ現状を報告する。緊急時には直接、看護師へ指示を頂く。家族対応時には口頭の他、情報提供書を利用し書面にて的確に伝わるよう工夫している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際より、地域連携室退院支援センターと連携し情報の共有を行っている。都度、連絡を取り合い退院日の調整や受け入れ時のご本人の状態を確認している。退院が長引く際は次のサービスへと繋がる支援も相談している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ重度化した際の事業所の方針を説明している。かかりつけ医によっては呼吸の有無により昼夜問わず連絡を入れるよう指示をうけている。ホームでの生活が困難となった場合の提案も説明している。		
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。事故発生時に備え急変時のマニュアルを目の届く場所へ保管。急変時マニュアルを見直し全職員が救急車要請を行えるよう手順を確認している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会員で構成される緊急連絡員に協力をいただき合同の火災避難訓練を実施している。水害、土砂災害時の避難方法や避難場所の確認、持ち出し用品の確認も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として入居者への尊敬の念を忘れず、人格を尊重した声掛けや対応に努めている。自尊心に配慮した援助や個々のプライバシーに気を付けながら対応している。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の関わりの中で思いや要望を言葉や言動などから感じ取り、職員との密なコミュニケーションから本人の意思表示がし易い環境をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前からの生活環境を重視し24時間アセスメントシートにて1日のペースを確認している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人1人の性格や価値観、センスを御家族と相談し画一的な身だしなみではなく、本人らしい姿や本人の望む着こなしが出来るよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好に合わせて好き嫌い・形態を配慮し提供している。季節の食材を取り入れたり、行事食のメニューを作成している。又、配膳・下膳等入居者の役割として職員と一緒にやっている。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を心がけている。食事摂取量・水分摂取量を毎日記録付けし、入居前の習慣を考慮しながら味付けや量を調整している。体重の増減が見られた際はかかりつけ医と相談しながら摂取量を調整している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、習慣として行っているが、声掛けや付添いにて本人に合わせた口腔ケアを行っている。実施後は記録へ残している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、定時誘導を行い排泄のタイミングを計らい失禁防止に努めている。失敗時には羞恥心に配慮し援助している。又、日中はリハビリパンツから布パンツへ交換し自立に近づける努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操に参加を促したり、水分を多く摂取するよう促しを行っている。野菜を多く取り入れたメニューの工夫も行っている。排泄表を確認しながら便秘傾向の入居者はかかりつけ医と連携し下剤調整を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルを確認後、本人の希望を考慮し午前、午後に入浴を行っている。夜間入浴は職員の配置上、対応が出来ない旨を説明している。あくまでも本人の意向を最優先にし気持ちよく入浴していただけるよう対応している。		
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせて昼夜問わず、自室で自由に休息出来るよう空調の調整や、職員が直ぐに駆け付けられるよう見守りを行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量・副作用等、処方される度に薬情を申し送り職員へ周知する。服薬は3重にチェックする体制をとり誤薬に努めている。かかりつけ薬局と密に連絡を取り合い、薬が変更になる度に説明を頂き、薬の相談も気兼ねなく受けて頂いている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドやご家族の情報から、ご本人が得意としていた事や興味のある事、仕事歴を参考に手作業、裁縫、編み物、音楽鑑賞等、趣味を楽しめる支援を行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・散髪・買い物等本人の希望に沿って個別に対応している。ご家族の協力を得て、生家や墓参りへの外出や外泊、花見・紅葉ドライブを例年行ってきたが本年はコロナ対策の為外出は自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から小遣いとしてホームでお金をお預かりしている。自己管理希望者には個別に対応し必要分をお渡ししている。又、家族の意向に応じている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話や手紙のやり取りは自由に行っている。ご家族の意向で携帯電話を持参されている入居者もいる。本人からの要望があればご家族へ連絡を入れ安心できるよう支援している。本年はコロナ対策の為、面会も自粛しており電話での様子伺いを御家族へ推奨した。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感を感じられる花や飾りを置いている。常に清潔感を保てるよう配慮し、空気清浄機・空調・照明・テレビの音に気を付けながら、常に人の会話が聞こえる様努めている。トイレは消臭スプレーを使用し他者が不快にならない様努めている。		
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは気の合う方同士で過ごせる様にソファや椅子の配置に配慮している。個別に休めるソファも設置し落ち着いて過ごせる居場所づくりに努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具や、本人の大切なパートナーの写真等を飾る事により安心して過ごして頂いている。本人の希望に沿ってテレビを設置したり入居前の生活に近づける様努めている。		
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLを勘案し食事席の場所やトイレに近い居室等、個々の動線を確認し安全に移動できるよう工夫している。		